ドイツ・ロマンチック街道と
ドナウの真珠ブダペスト

右城　猛・絹枝

2006.10.22

目　　次

１．まえがき 2
２．ツアーの参加者 2
３．Ｂコース（ドイツ）の観光地と日程 3
４．第１日目［１０月８日(日)］ 5
　１）高知龍馬空港から出発 5
　２）ハンガリー到着 Hungary 5
５．第２日目［１０月９日(月)］ 5
　１）ザンクト・ゴア St.Goar 5
　２）ライン川クルーズ 7
　　◆　ライン川 Rhein 7
　　◆　ねこ城 Burg Katz 7
　　◆　ローレライ Loreley 8
　　◆　落石防護工 8
　３）リューデスハイムからハイデルベルクへ 8
６．第３日目［１０月１０日(火)］ 9
　１）ハイデルベルク Heidelberg 9
　２）ハイデルベルク城 10
　３）旧市街観光 12
　４）カール・テオドール橋 13
　５）古城街道 14
　６）ローテンブルク Rothenburg 15
　　◆　ローテンブルクのホテル 15
　７）ドッペル橋（二重橋） 16
７．第４日目［１０月１１日(水)］ 17
　１）マルクト広場 Markt platz 17
　２）聖ヤコブ教会 St.Jakobs-Kirche 18
　３）絵看板 19
　４）城壁 20
　５）水道施設 20
　６）ディンケルスビュール Dinkelsbühl 21
　７）アウトバーン Autobahn 22
　８）アウトバーンのサービスエリア 23
　９）フュッセン Fussen 24
　１０）ホテル「ルートポルトパーク」 25
８．第５日目［１０月１２日(木)］ 26
　１）ノイシュヴァンシュタイン城 26
　２）ミュンヘン München 27
　　◆　マリエン広場 Marien platz 27
　　◆　ヴィクトアーリエンマーケット 28
　３）ミュンヘンの食事 30
　４）ドイツからの出国 30
９．第６日目［１０月１３日(金)］ 31
　１）ブダペスト Budapest 31
　２）漁夫の砦 31
　３）マチャーシュ教会 32
　４）セント・イシュトヴァーン教会 33
　５）英雄広場 34
　６）ドナウベント Donaubent 34
　　◆　古都エステルゴム Esztergom 34
　７）ビシュグラード Visegrad 35
　８）センテンドレ Szentendre 35
　９）最後の晩餐 36
１０．第７日目［１０月１４日(土)］ 37
　１）鎖橋とその周辺 37
　２）ドナウ河クルーズ 39
１１．車中から眺めたブダペスト 41
１２．蛇足 42
　１）電波時計 42
　２）カメラ 42
　３）ホテル 43
１３．あとがき 43

ヴァイツェンビア用のグラス

1. まえがき

私達は昭和 56 年 4 月 25 日に結婚した。今年は結婚 25 周年の節目の年にあたる。記念になる旅をしたいと考えていたところ，高知新聞企業が創立 40 周年記念事業の一環として「チャーター便で行く中欧ハンガリー・秋色ヨーロッパ４コース」というツアーを近畿日本ツーリストと合同で企画したことを知った。

10 月 8 日にマレブハンガリー航空のチャーター便で高知龍馬空港からハンガリーの首都ブダペストに飛び，そこから A コース(ハンガリー，チェコ，オーストリア，スロバキアの中欧４カ国)，B コース(ドイツ)，C コース(ポーランド)，D コース(フランス)の４コースに分かれてそれぞれ見物。14 日に再び合流してブダペスト空港からチャーター便で高知龍馬空港に帰るという内容である。

私達は，その B コース「黄金のドイツの秋・ライン川下り，ロマンチック街道とブダペスト」に参加した。

2. ツアーの参加者

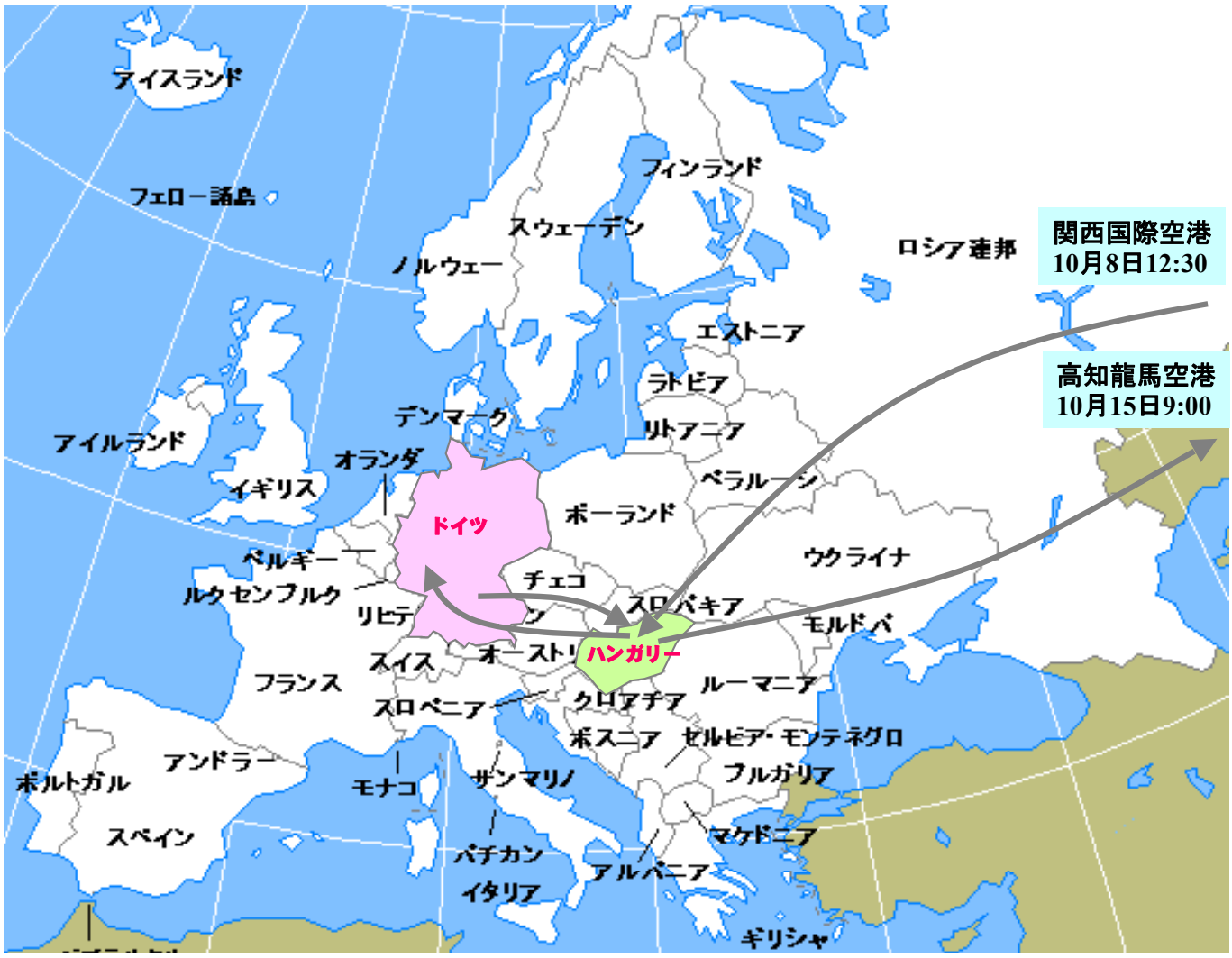
ツアーの参加者は 157 名。添乗員を入れると総勢 165 名。ドイツコースは池田隆・喜久子，山下直利・小夜子，田所邦夫・久子，市原雅人，北岡秋男，井本操，小川昌意，山本八重壽，中西まち，森木由紀，鎌倉幹根，西田令子，中村里和，中岡祥子，正木陽子，金山淑子・高橋史子，高橋保・美喜子，宇賀美代子，右城猛・絹枝，山本光子，宮地令子，今井治子，渡辺優子，伊藤孝子，伊藤マリナの 31 名。

ドイツコースの添乗員は，近畿日本ツーリストの外山貴美子さん。添乗員になるために生まれたような人。

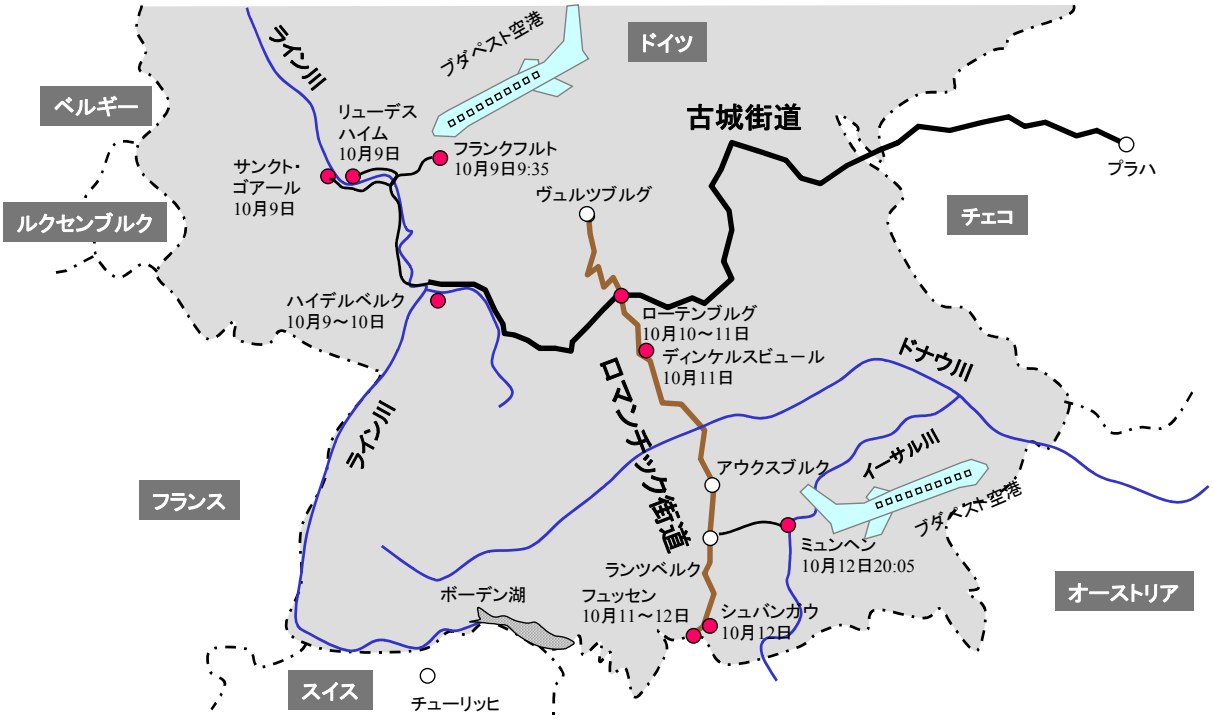
他のコースを選んだ参加者も含め，定年で退職した 60 歳を超える高齢者が多い。80%は女性で，友人と参加したというグループが多い。男性はほとんどが夫婦での参加であった。

ドイツコース参加者(ブダペスト漁夫の砦の前，外山添乗員撮影)

3. B コース（ドイツ）の観光地と日程



観光地はハンガリーとドイツの 2 カ国



南ドイツの観光地

ハンガリーの観光地

日程

月日	午　前	午　後	夜
1 日目 10／8	9:00 高知空港発 12:30 関西空港発	マレブハンガリー航空ボーイング 785 機内で朝食と夕食	17:35 ブダペスト空港着 19:30 ホテル着 20:00　ホテルのレストランで夜食 ヒルトンホテルブダペスト泊
2 日目 10／9	5:30　ホテル発 7:50 ブダペスト発 9:35 フランクフルト着 専用バスでザンクトゴアへ	ザンクトゴアの古都レストランで昼食 ライン川クルーズ観光 　ねこ城，ローレライの崖，落石防護工 リューデスハイム観光 　つぐみ横町 ハイデルベルクへ	ハイデルベルク着 ホリデイイン・ハイデルベルク泊
3 日目 10／10	ハイデルベルク市内観光 　ハイデルベルク城 　大学広場，学生牢 　マルクト広場，市庁舎 　騎士の館 　カールテオドール橋など	古城街道を通ってローテンブルク 　ホテル・ヒルショホルン城 　ブルクホテル・ホルンベルク城 ローテンブルク市内観光 　ドッペル橋，ブルク公園，城壁	ローテンブルクの「ライヒスクーヘンマイスター」泊
4 日目 10／11	ローテンブルク市内観光 　マルクト広場，市庁舎 　宴会の館の仕掛け時計 　聖ヤコブ教会	ロマンチック街道をドライブ ディンケルスビュールを見物 　木組みの館の街並み 　ドイチェス・ハウス アウトバーンのサービスエリア ロマンチック街道を通ってフュッセン	フュッセンの「トレフホテル・ルートポルトパーク」泊
5 日目 10／12	シュバンガウ 　アルプ湖 　ホーエンシュヴァンガウ城 　マリエン橋 　ノイシュバンシュタイン城	シュバンガウのレストランで昼食 専用バスでミュンヘンへ ミュンヘン市内観光 　マリエン広場，新市庁舎 　ヴィクトアーリエンマーケット	ミュンヘン市内のレストランで夕食 20:05 ミュンヘン空港発 21:25 ブダペスト空港着 ヒルトンホテルブダペスト泊
6 日目 10／13	ブダペスト市内観光 　漁夫の砦 　マチャーシュ教会 　聖イシュトヴァーン教会 　英雄広場	ブダペスト市内のレストランで昼食 ドナウベント地方観光 　エステルゴムの大聖堂 　ビシュグラード 　センテンドレ	ゲッレールトの丘のレストランでハンガリー民族舞踊を見ながら食事 ヒルトンホテルブダペスト泊
7 日目 10／14	ドナウ川クルーズ 　鎖橋，銅の靴 　国会議事堂 　マルギット橋，自由橋	ブダペスト自由橋近くのレストランで昼食 15:00 ブダペスト空港発 マレブハンガリー航空ボーイング 785	機内で夕食 機内泊
8 日目 10／15	機内で朝食 9:00　高知空港着		

４. 第１日目［１０月８日(日)］

１） 高知龍馬空港から出発

高知龍馬空港２階の国内線出発ロビーの西側が，臨時の国際線出発ロビーとなっていた。出国手続きを済ませ，マレブハンガリー航空のボーイング 785 に乗り込む。185 人乗りの座席はほぼ満席。

午前１０時，高知龍馬空港を離陸。給油と機内食の積み込みのため関西空港に寄る。その間，我々は出発ロビーで待機。関空を離陸したのは予定より４０分遅れの１２時３０分。

機内のスクリーンには，飛行機の現在地点を示した地図と共に，時々刻々と変化する飛行情報が表示されている。高度 9,600m，外気温－43゜C，対地速度 757km/h，出発地時刻 14:05，目的地時刻 7:05。

飛行機の下には雲海が広がっている。日本時間を表示した手元の時計を見ると，０時を回っている。真夜中のはずなのに，窓の外は太陽の光で輝いている。

ブダペストに着くまで二度の機内食があった。機内食が配られる直前に，メニューの内容，注文の仕方の説明がきれいな日本語でアナウンスされた。マレブハンンガリー航空には，日本語を話せる客室乗務員がいないので，外山添乗員が代わって説明をされた。機内アナウンスは初めての経験であったようであるが，堂々とした口調には，大物の片鱗を感じた。

高知空港に来たマレブハンガリー航空のボーイング 785。搭乗する直前。

夕暮れのブダペスト空港

２） ハンガリー到着 Hungary

０時３５分，現地時間の 17 時 35 分，定刻通りブダペスト国際空港(フェリヘジ空港)に着陸する。空港は想像していたよりも小さい。

入国手続きを済ませ，専用バスでホテルに到着したのは現地時間の１９時 30 分。早速ホテルでハンガリーの貨幣フォリント(Ft)に両替する。レートは１円が 1.8252Ft。3000 円で 5,038Ft のはずであるが，返ってきたのは 1,000Ft 札が６枚と，50Ft の硬貨が１枚。6,050Ft であった。

ちなみにユーロのレートは，出発前に四国銀行で両替したときは１ユーロ=158.5 円。高いと思ったが，ブダペストの空港で両替すると 170 円だったというから驚いた。

ハンガリーの首都ブダペストの人口は約 210 万人。ハンガリー全体の 20%がここに集まっている。19 世紀後半にドナウ川右岸のブダと左岸のペストが合併してブダペストとなった。ハンガリー語でブダは「水」。ペストは「焼き物の釜戸」の意味。

ブダペストは「ドナウの真珠」と呼ばれるだけあって，夜景が本当に美しい。

５. 第２日目［１０月９日(月)］

１)ザンクト・ゴア St.Goar

０時，１時，２時と１時間おきに目が覚める。完全に時差ボケ状態。しかし，０時は日本時間の 7 時。ボケているのではなく，体内時計が正常に動いている証拠ともいえる。

モーニングコールは 4 時 30 分であったが，4 時に起床。風呂に入る。テレビを付けると NHK で北朝鮮が核実験をしたというニュースを報道していた。

出発は 5 時３０分。ホテルが作った弁当をもらってバスに乗り込む。バナナ，リンゴ，リンゴジュースの他にパンが３個も入っていた。とても食べられる量ではない。バナナとジュースと 1 個のパンを食べ，後は処分する。

7 時５０分発の小型ジェット機でフランクフルトへ。飛行時間は 1 時間３０分。飛び立つとすぐに機内食がでる。ドイツらしくソーセージとポテト。

飛行機はドナウ川に沿ってその上空をフランクフルトに向けて飛んでいた。窓からの眺めは霞がかかっているが比較的良好。ドナウ川沿いに開けた広大な平地が地平線の彼方まで広がっている。これだけ畑があれば EU 諸国は食糧難の心配をしなくても良いだろうと思えた。

9 時 35 分フランクフルト国際空港着。ロンドンのヒースロー空港，アムステルダムのスキポール空港と共にヨーロッパの三大空港の一つに数えられるだけあって，滑走路も，ターミナルも広い。

ブダペストの出発ロビー。ホテルが作った弁当を食べながらフランクフルト行きの搭乗時間が来るのを持つ。

ドナウ川沿いに開けた広大な平地が，地平線の彼方まで広がっている。

近代的な高層ビルが建つフランクフルトの街

10 時 15 分迎えにきてくれた大型バスでアウトバーンを走り，ザンクトゴアの丘の上にある古城レストランに着いたのは 12 時半。ここから見るライン川のパノラマは抜群。レストランの入口に★が４つ。ミシュランでは，レストランは三つ星が最高なので，これはホテルのランクを表しているのか？

ヨーロッパ３大空港の一つフランクフルト国際空港

ラインフェルス古城ホテルのレストラン

レストランは４つ星

金山親子，山下夫妻と一緒のテーブルで昼食

ラインフェルスのレストランからの眺望

2)ライン川クルーズ

◆　ライン川 Rhein

アルプスを源流とするライン川は，ドイツを縦断しながら北流し，オランダのロッテルダムで北海に注ぐ全長 1320km の国際河川。ちなみに，日本で一番長い信濃川は 367km である。

「父なる川」と称されるライン川は，流域に住む人々にとって貴重な水源であるばかりでなく，ヨーロッパにおける交通の大動脈となっている。ライン川の中流域に位置するマインツからコブレンツの間には多くの古城が点在し，「古城ライン」と呼ばれており，ユネスコ世界文化遺産に登録されている。

ザンクト・ゴアからは KD 社（ケルン・デュッセルドルフ汽船会社）の観光船が，毎日４便運行している。我々が乗ったのは 14:15 分発の観光船。ライン川の両岸の景色や古城を眺めながら約 30km 上流のリューデスハイムに向けて２時間４０分の観光をした。リューデスハイムからザンクト・ゴアまでなら下りになるので所要時間は１時間短縮される。

ザンクト・ゴアの KD ラインの乗船場と観光船

ライン川クルーズ

ライン川では，観光船以外に物資を輸送する船舶が煩雑に航行している

ザンクト・ゴアスハウゼンの上方にある「ねこ城」

◆　ねこ城 Burg Katz

ザンクト・ゴアの対岸に位置するザンクト・ゴアスハウゼンの上方に「ねこ城」がある。1371 年に侯爵ヨハン三世が関税城として建設し，「新ねこ肘城」

と名付けたが，一般には「ねこ城」(ブルク・カッツ)と呼ばれている。現在の城は，1896 年から 98 年にかけて再建されたもので，連邦大蔵省職員の休暇の家として使われている。

◆　ローレライ Loreley

ザンクト・ゴアの KD ライン観光船の乗船場から 2km 程度上流の左岸に，高さ 130m 余りの絶壁が出現する。ローレライと呼ばれる崖である。道路の護岸には Loreley という文字が，対岸からも見える大きさで書かれている。

機動力がなかった時代の航行には，ローレライは恐怖の難所であったことから，ローレライが「岩壁上に憩う妖女」として擬人化され，「妖女の美しい歌声を聴いた船乗りたちは，たちまちのうちに海に沈んでしまった」という伝説や童話が語り伝えられている。

ハインリッヒ・ハイネの詩とフリードリッヒ・ジルヒァーのメロディーでこのローレライは世界で最も有名な崖となった。

古城のレストランから乗船場に向かう専用バスの中で，外山添乗員がローレライを話題にしたとき，山下さんが持参していたオカリナでローレライの曲を演奏してくれた。

伝説に包まれたローレライの岩壁

◆　落石防護工

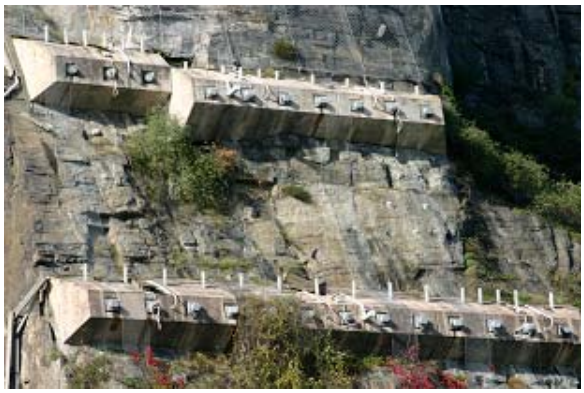
ライン川の両岸には道路と鉄道が平行して走っている。左岸には IC(都市間特急)，ICE(都市間超特急)，EC(ヨーロッパ都市間特急)が走る幹線鉄道，右岸にはローカル線が走っている。

両岸とも崖地形が多い。特に，幹線鉄道が走る左岸は，落石の恐れがある崖地形が多い。随所でリングネット工法を主体とした落石防護対策が実施されていた。

リングネット工法とは，スイス連邦森林・降雪・景観研究所（WSL）によって開発された高エネルギー吸収型の落石防護柵である。ストンガードと呼ばれる普通の落石防護柵が吸収できる落石エネルギーは 50 キロジュール程度であるが，リングネット工法は 2000 キロジュールまでの運動エネルギーを持つ落石を受け止めることができる。日本には 1996 年に技術導入されている。リングネットの他に落石防護網，ロックアンカーなどが見られた。

ライン川の左岸にはドイツ鉄道の新幹線も走っている。その上の崖にはリングネットが何段にも設置されていた。

落石対策として設置されたリングネット工法



ロックアンカー

３)リューデスハイムからハイデルベルクへ

ライン川の両岸の斜面には美しいブドウ畑が広がっている。特に，リューデスハイムはドイツ有数の

白ワインの産地である。

リューデスハイムでは，「つぐみ横町」と呼ばれる狭い路地を１５分間散策した。路地の両側には，ワインレストランや土産物屋が軒を連ねている。

リューデスハイムを 17 時３０分に出発。19 時ハイデルベルク着。レストランで食事を済ませてホリデイン・ハイデルベルク着は 21 時。

フランクフルトからザンクト・ゴアまでの道筋でリンゴ畑をよく見かけた。日本では商品価値がないような小さなリンゴである。ドイツ人は健康のために皮付きのリンゴを毎日かじるらしい。ホテルによっては，フロントにリンゴを置いていあるところがある。

リューデスハイムのブドウ畑

ブドウ畑の後の建物はリューデスハイマー・シュロスホテル

つぐみ横町

ホリデインホテルにもフロントのカウンターに，透明の筒状の器にリンゴが盛られていた。ウエルカム・ドリンクならぬウエルカム・アップルといったゴである。

私は青いリンゴ，妻は赤く熟れたリンゴをもらった。青いリンゴは堅いし，少し酸っぱくてお世辞にもうまいとはいえない。赤いリンゴは柔らかくておいしかった。青と赤の違いはリンゴの品種かと思ったが，単に熟れているかどうかの違いであった。

部屋に入ると体が疲れ過ぎて動かない。服も着替えずにベットに横たわる。知らぬ間に熟睡していた。

６. 第３日目［１０月１０日(火)］

１)ハイデルベルク Heidelberg

時差ぼけ状態が続いているのか，昨夜 10 時頃に寝たせいか分からないが，朝の 3 時に目が覚める。

朝食はバイキング方式。我々のツアーの食事は，一般客とは別に用意されていた。宿泊料を値切ったに違いない。種類が少なくて選択の余地がない。何を食べようかと迷う楽しみがない。

ハイデルベルクの人口は１４万人。学生は２．５万人。海外からの留学生が 2500 人。日本人は 50 人。1386 年に創立されたドイツ最古のハイデルベルク大学があり，これまでに８人がノーベル賞を受賞しているとのこと。

ドイツの国立大学は学費が無料。学生は半年に 1 度，何を研究をしたいかで教授を選び，大学を移動することができる。最近は財政難のため，大学を移動するには５００ユーロの金がいる。大学にはキャンパスがなく，教室が各地に散らばっている，という説明であった。

街中で道路工事を見かけた。３０年前に施工した電気やガスなどの地下埋設管が老朽化し，更新時期を迎えたため，あちこちで工事をしているとのこと。ドイツでは，道路工事を夜間や休日にするということはないので，時間がかかる。現場労働者には，ポーランドなど賃金が安い東欧の人が多い。ドイツ人は職業を選ぶので失業率が増えている。事情は日本とよく似ているようである。

ホリデイン・ハイデルベルクの入り口

２)ハイデルベルク城

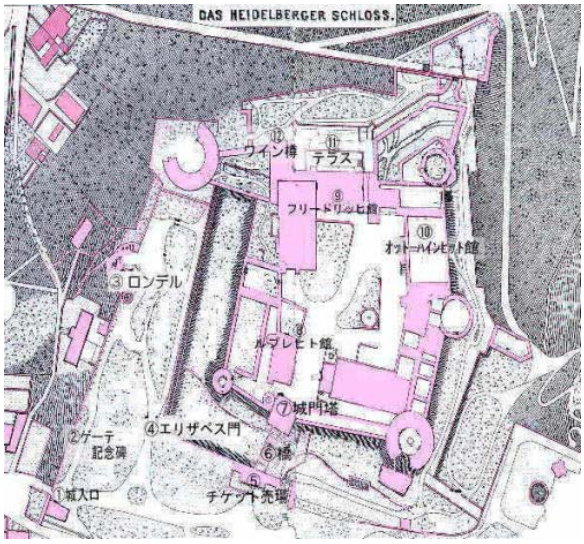
9 時にホリデインホテルを出発。今日はハイデルベルク城とハイデルベルク旧市街を観光する予定。ガイドはハイデルベルクに住んで 28 年というベテランの久米さん。

最初に訪れたのは，山の中腹にあるハイデルベルク城。狭い駐車場に大型バスが 7 台ほど止まっていた。

ハイデルベルク城は 1300 年に起工されて以来ライン・プファルツ選帝侯であるヴィステルバッハ家の居城として代を重ねながら拡張されてきた。代々の王がその時々の流行の建築様式を取り入れ，出来上がった建物に自分の名前をつけている。1622 年には 30 年戦争で城も町も旧教側の軍隊によって破壊され，1689 年にはオルレアン継承戦争でフランス軍の砲撃と火薬を仕掛けての爆破により見る影もなく破壊された。その後，改修工事が行われ，現在は州政府が管理・運営している。

城の入口を入ると左手にエリザベスの門がある。フリードリッヒ５世が，エリザベス・スチュワートの１９歳の誕生祝いとして，一夜のうちに建てさせたことから「一夜の門」とも呼ばれている。

城門をくぐって中に入ると，正面に見える華麗な建物がフリードリッヒ館。１６０７年にフリードリッヒ４世により建てられて以来，代々の選帝侯の居住館になっている。ファッサード（正面の装飾）は黄色の砂岩でできており，歴代の力のあった選帝侯の像が飾られていた。



ハイデルベルク城の見取り図

エリザベス門の説明をするガイドの久米さん

エリザベスの門

フリードリッヒ館

フリードリッヒ館の前に地下へ降りる階段がある。地下はワインの貯蔵庫であるが，観光用に改造されていて，ワインの販売コーナーも設けられアイスワインが売られていた。

アイスワインとは「凍った完熟ブドウ」から造られるワイン。ドイツのフランコニアの農場で偶然に生まれた。凍ったために捨てるはずであった完熟ブドウでワインを造ったところ，とても甘みの強い芳醇な香りのワインができあがった。これがアイスワインである。

小さなグラスに 1/5 程度入ったアイスワインが４ユーロで売られていた。グラスは記念にくれる。

地下には１７５１年にカール・テオドールが造った直径７ｍ，２２万２千リットルの容量の巨大ワイン樽がある。木製の樽としては世界一。大樽の前に「ペルケオ」の像がある。カール・フィリップやカール・テオドールに使えたイタリア出身の道化師。一日１８本ものワインを飲む大酒のみで，人をからかうことが好きだったと言われている。

フリードリヒ館を通り抜けるとテラスがある。ここからの眺めは素晴らしい。煉瓦色の美しい旧市街，ネッカー川，カール・テオドール橋，水門が眺められる。

テラスでは，日本人が結婚式を挙げていた。新郎新婦の最初の共同作業は，日本ではケーキカットか酒樽割であるが，ここでは「鋸による丸太切り」のようである。

アイスワイン

「ペルケオ」の像とワインの大樽

ワインの大樽の前で

日本人の結婚式

新郎新婦の最初の共同作業は丸太切り

カール・テオドール橋と旧市街

大学広場と旧大学校舎

フリードリヒ館の裏のテラスから眺めた旧市街

商店が軒を連ねるハウプト通り

３)旧市街観光

旧市街のほぼ中央に大学広場がある。広場に面して建てられている白壁に赤い窓枠の建物は，ハイデルベルク大学の旧校舎。広場の中央には「ライオン」の噴水がある。

学生食堂，大学広場，学生牢を観光したあと，商店が軒を連ねるハウプト通りにある免税店でショッピング。女性達がショッピングに熱中している間，男性達は横のアイスクリーム店の前でアイスクリームを食べながら一休み。

ドイツには窓を鉢植えの花で飾っている家が多い。町の景観を良くするという意味もあるが，虫除けとのこと。ドイツには網戸がない。花の香りで，虫が部屋の中に入るのを防いでいるようである。

ハウプト通りには，1592 年に建てられたドイツ・ルネッサンス様式の歴史的建造物「騎士の館」がある。現在は，ホテル・レストランとなっている。

カール・テオドール橋を真っ直ぐ南に来ると，マルクト広場に当たる。広場の中央にはヘラクレスの噴水，東側には広場に面して市庁舎がある。広場の西には聖霊教会がある。

アイスクリームを食べながら一休み

きれいな花で飾られた商店

ハイデルベルクで最古のホテル

マルクト広場と市庁舎

4)カール・テオドール橋

ネッカー川にかかる最古の橋。またの名はアルテ・ブリュッケ　Karl Theodor Brucke (古い橋)。200 年前までは屋根のある木のはね橋が架けられていたが，オルレアン継承戦争で焼失したり，流氷に押し流されたりしたため，18 世紀末に選帝侯カール・テオドールが現在の石の橋に造り替えた。

バロック風の橋門は，13 世紀にこの場所にあった城壁の一部だったもの。橋門のすぐ横にはカール・テオドールの像がある。市民が 1788 年に建てた。像の台座にはヴィステルバッハ家の領地を流れる４つの川「ライン，ドナウ，ネッカー，モーゼル」を表す４体の像が置かれている。

橋門の横に，ブロンズ製の猿の像が置かれている。左手に持った鏡で見物人の心を照らし出そうとしている。

カール・テオドール橋

バロック風の橋門

カール・テオドール橋を背景に山本さんと

カール・テオドールの像

猿のブロンズ像

カール・テオドール橋の近くの中華料理店

５)古城街道

カール・テオドール橋の近くの中華料理店で昼食を済ませた後，バスで古城街道を通ってローテンブルクへ向かう。その途中でネッカー川沿いの山の中腹に建つ古城を見物した。

一つは，ヒルシュホルン城。現在は古城ホテルになっている。ネッカー川の対岸に見られる集落は，木々の緑色に家屋の煉瓦色がマッチして美しい。

見物したもう一カ所の古城は，ワインで有名なブルクホテル・ホルンベルク城。この周辺の景色も美しい。道路の歩道は，コンクリート造で，ネッカー川に大きく張り出した構造になっていた。

古城ホテル・ヒルシュホルン城

ヒルシュホルン城の対岸の集落

ブルクホテル・ホルンベルク城

ブルクホテル・ホルンベルク城の下の古城街道

ネッカー川に大きく張り出した構造

６)ローテンブルク Rothenburg

ローテンブルクは，城壁で囲まれた町。古典的建築様式である木組み作りの美しい家が建ち並ぶとても美しい街である。

１３世紀に帝国自由都市として繁栄したが，１７世紀の３０年戦争で痛手を受けて衰退し，歴史から忘れ去れていた。そのお陰で，中世の面影を完全に残すことができたと言われている。世界第二次大戦では，街の４割が消失したが，国内外の資金援助を受けて美しい街並みが再建されている。

ローテンブルクへの到着は 16 時。今回の旅行中，最も早い時間にホテルに入ることができた。

◆　ローテンブルクのホテル

ホテルは，マルクト広場から少し北にある「ライヒス・クーヘンマイスター」。ヨーロピアンスタイルの三つ星ホテル。

ヨーロピアンスタイルとは，ハイデルベルクの「騎士の館」や「古城ホテル」などのように，元々は他の利用目的で建てられた建物を改造して造られたホテル。アメリカンスタイルのように，部屋の大きさやレイアウトが統一されておらず，部屋毎に異なっている。

ツァーグループが泊まったのは，ホテルの別館。その中で，私達の部屋が最高であったようだ。部屋も広いが，なんと言っても木組みのベッドがすごい。

ハンガリーやドイツのホテルでは，ツインルームであってもベッドはダブルのようにくっ付けて並べられている。

宿泊したホテルの部屋

ホテル「ライヒス・クーヘンマイスター」の中のレストランへの入り口

左の木組みの建物が食事をしたホテル「ライヒス・クーヘンマイスター」の本館

観光用の馬車

7)ドッペル橋（二重橋）

15時より旧市街を囲む城壁のコボルツェラー門から外に出て，タウバーヒエラと呼ばれる旧市街の南斜面を降り，タウバー川に架かっているドッペル橋を見物した。その後でブルク公園を散策した。

ドッペル橋あるいは二重橋と呼ばれるこの橋は，ローマ風の石造りアーチ構造。

ゴルツェラー門の外面

ブルク公園近くの城壁の内側から眺めたドッペル橋

ドッペル橋

プレーンライン

ドッペル橋

コボルツェラー門

ドッペル橋の親柱

７. 第４日目［１０月１１日(水)］

１)マルクト広場 Markt platz

マルクト広場とは，マーケットが開かれる広場のこと。ドイツではどこに行っても街の中心に市民が集うマルクト広場がある。

ローテンブルクのマルクト広場には，市庁舎，市会議員の「宴会の館」がある。市会議員の宴会場は，市庁舎の中にあるのが一般的であるが，ローテンブルクでは街が繁栄してい時期に建てられたので，宴会専用の館が贅沢に建てられた。市庁舎や宴会の館は，建築家レオンハルト・ヴァイトマンの設計。

宴会の館には，「マイススター・トルンク」の仕掛け時計がある。マイススター・トルンクとは，三十年戦争の時代にローテンブルクを破壊から救ったという酒豪のヌッシュ市長のこと。

三十年戦争のさなか，敵軍に囲まれたローテンブルクはついに陥落。敵方の将軍ティリーが，市庁舎に乗り込んできたとき，将軍は「この特大ジョッキに注がれたワインを一気に飲み干す者がいたら，街を焼き払わずにいてやろう」と言い出した。ジョッキは３．２５リットル入り。受けて立ったヌッシュ市長は，見事にワインを飲み干して街を救ったという物語。

仕掛け時計は，11 時から 15 時，および 20 時から 22 時の間の毎時ちょうどに，宴会の館にある切妻部の二つの窓が開き，一気のみの場面を再現する。

地上 60m の市庁舎の鐘塔(鐘楼)には，狭く急な木製の階段で上ることができ，上は展望台になっている。ここからの眺めは素晴らしい。

マルクト広場

マルクト広場に面した市庁舎と市議宴会館

市議宴会館の仕掛け時計

マルクト広場の屋台で売られていたリンゴジュース

リンゴジュースは，コップ一杯が 1.5 ユーロ

市庁舎の鐘楼

鐘楼の頂上の展望台

塔の上の鐘

市庁舎の鐘塔の上から眺めたマルクト広場

市庁舎の鐘塔の上から眺めた旧市街

鐘塔に上がる木の階段

２)聖ヤコブ教会 St.Jakobs-Kirche

１３１１～１４９０年までの長い期間を要して完成したゴシック様式の教会。１５０５年に完成した有名なリーメンシュナイダーの聖血の祭壇がある。祭壇の中央は「最後の晩餐」の場面。

１９６８年に奉納されたパイプオルガンは，５５００本のパイプでできていて，音色は，世界中の専門家達の間で絶賛されている。

5500 本のパイプでできたパイプオルガン

十字架の中央のガラス球には，キリストの血が入っている

聖ヤコブ教会の聖血の祭壇

３)絵看板

ドイツはどこに行っても店先に美しい絵看板を見ることができるが，有名なのはローテンブルク。この街では，看板を掛ける高さ，場所，大きさなどが統一されているようである。街の中の絵看板を見て歩くだけでも楽しい。

元々は，文盲の市民のために造られたようである。

大通りヘルンガッセに見られる錬鉄細工の看板

見るだけでも楽しくなる絵看板

壁面に寄贈者の名前を書いたプレートが埋め込まれている

4)城壁

中世の都市は外敵から街を守るため，周囲に防御の壁を築いている。第二次世界大戦で破壊された城壁は，国内外からの寄付金で修復された。城壁の壁には寄贈者の名前を書いたプレートが埋め込まれている。日本の団体の名前も見られる。

シュラネン広場近くの城壁

5)水道施設

ローテンブルクの街は高所にある。給水施設は，市民にとって生命に関わる極めて重要な設備。街の随所で泉や井戸を見かけた。

街の地下には，水道の配管が張り巡らされている。街が敵に包囲された場合，水道を破壊されたり，毒を入れられたりすることがないように水道の配管系統図は極秘事項とされていたようである。

最も美しい泉は，マルクト広場の南にあるゲオルスクの泉。別名はヘリトリウスの泉。竜を退治する聖ゲオルクの騎士像が，泉の中央の石柱上部に立ち，その下は紋章で飾られている。

井戸に水が引かれたのは 1446 年であるが，泉の周りの石製枠は 1608 年に後期ルネッサンス風に改装された。この井戸の深さは 8m。10 万リットルの貯水量を有し，火災時に備えた防火用水としての用途もある。

宿泊したホテル入り口の近くにある井戸

スティミード通りの泉

マルクト広場の近くにあるゲオルスクの泉

ブルク門近くの泉

大通り「ヘルンガッセ」にあるヘルネンの泉

スティミード通りの泉の小屋

６)ディンケルスビュール Dinkelsbühl

周囲を城壁に囲まれたディンケルスビュールの旧市街は，東西方向 600m，南北方向 800m の小さな街。帝国自由都市として，中世に手工業と交易で繁栄した。農民戦争，三十年戦争など幾多の戦をくぐり抜け，第二次世界大戦でも奇跡的に被害を免れた。

城壁の東を流れるヴェルニッツ川

街の中心には，マルクト広場があり，広場に面して聖ゲオルク教会が建てられている。この教会は，1448～1499 年に教会建築の名人といわれたニコラウス・エーゼラーによって建てられた。塔は 13 世紀のもので，後期ロマネスク様式。

15 世紀に建てられた木組みの館ドイチェス・ハウス。皇帝カール 5 世も滞在した。

街の中心にあるマルクト広場。塔は聖ゲオルク教会

ドクター・マルティン・ルター通りに面して軒を並べる美しい木組みの家

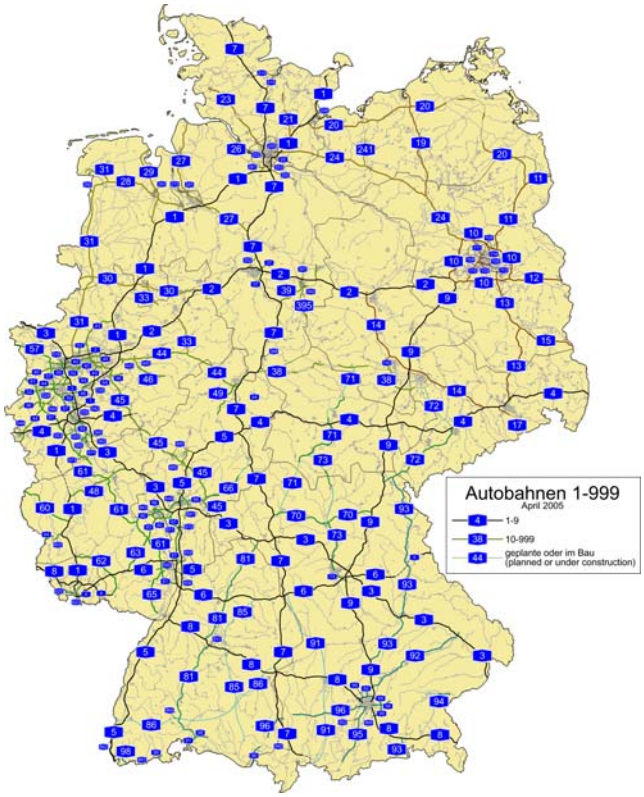
7)アウトバーン Autobahn

今回の旅行では，フランクフルトからラインクルーズに向かう途中，ハイデルベルクからローテンブルクの間，ローテンブルクからディンケルスビュールの間，ディンケルスビュールからロマンチック街道に入る間，ミュンヘンに向かう間でアウトバーンを利用した。アウトバーンはドイツ中を網の目のように張り巡らされている。

アウトバーン走行中は，旅行疲れで爆睡していることが多かったが，日本の高速道路とはかなり異なっているという印象を持った。日本の高速道路には，高架，トンネル，橋梁といった構造物区間が多い。ところがアウトバーンでは，高架や橋梁を見ることはなかった。土工区間のみであった。広大な平地を均してアスファルト舗装しただけである。建設費用は日本の高速道路に比べて 1/10 程度であろう。

アウトバーンは速度無制限の高速道路と思っていたが，速度制限を示す標識をあちこちで見かけた。標識がない区間においても，自動車のスピードが速いという感じはなかった。

我々が乗っているバスの走行速度は80～100km/h，乗用車は 100～120km/h 程度。日本の高速道路と変わらない。



網の目のように国中に張り巡らされたアウトバーン

右側の路側部にガードレールがない

オーバーブリッジ

制限速度 120km/h の標識

Autobahn の Auto は自動車，Bahn は専用道的な意味がある。アウトバーンとは「自動車専用道路」のこと。高規格の自動車専用道路はシュネル・シュトラーセ（Schnellstrasse）と呼んで区別しているようである。

アウトバーンには速度無制限区間と速度制限区間がある。速度無制限区間であっても無制限なのは乗用車だけ。トラックは 80km/h が制限速度になっている。近年は速度制限区間が路線全体の 80%まで増えている。

８)アウトバーンのサービスエリア

ディンケルスビュールからフュッセンに行く途中で，トイレ休憩のためアウトバーンのサービスエリアに入る。トイレは以前から有料であったが，機械化で無人化されていた。50 セントを入れるとバーが回転して中に入ることができ，おつりと領収書も出てくる。

2003 年，10 年振りにイタリアに行ったとき，公衆トイレがきれいに整備され有人化されていた。清潔と雇用の確保が目的と知り，納得しことであった。ドイツは雇用よりも合理化を優先したのだろうか。

サービスエリア内では食事もできるが，ショッピングもできる。スーパーマーケットのように品揃えが多い。ワインやビールまで売っているのには驚いた。

サービスエリアでショッピングをしたとき，レジでお金と一緒にトイレで受け取った領収書を差し出せば，代金からトイレ代の５０セントを差し引いてくれる。

アウトバーンのサービスエリア

有料トイレの入口

土産用のお菓子を買う女性たち

サービスエリアのワインコーナー

９)フュッセン Fussen

世界一美しい道路といわれるロマンチック街道を南下して，フュッセンまで行く。ドイツは南下するほど気温が下がる。標高が高くなるためである。

フュッセンの名前の由来は足という言葉フューセ（Fusse)。山の足，麓にある町という言葉の通り，高くそびえるアルプスの麓に位置する。

ロマンティック街道はここで終わりとなるが，古代ローマ時代の道 VIA Claudia はさらに南へと続き，オーストリアのチロル地方を通り，イタリアへと至る。古代ローマ時代にはこの場所に要塞が築かれ，アルプス越えの要衝の町であった。

アルプスを背に，標高 800mとドイツで最も標高の高い町。町の裾野をレッヒ川が流れ、フォルゲン湖を始めとする美しい湖と森に囲まれ，キャンプ，スキー，登山などのレクリエーションや温泉の保養地として，一年中観光客の絶えない町である。

午後 6 時，フュッセンのホテル「ルートポルトパーク」に到着する。夕食は，郊外の湖畔にあるホテルのレストランでとる予定であるが, 出発するまで 1 時間あまり時間があったので，妻と二人でホテル近くの旧市街を散策する。

ホテルのすぐ前は，歩行者天国のショッピングストリート「ライフェン通り」。ライフェン通りの奥に見える時計塔のある建物は，ホーエス城。

6 時を回っているので多くは店を閉めていて，買い物客はほとんどいない。ドイツでは商店の営業時間は，一般的に 6 時までなのである。日本では，コンビニは 24 時間営業しているし, スーパーマーケットも深夜近くまで営業している。大きな違いである。

牧歌的な風景

ホテル「ルートポルトパーク」の正面

ショッピングストリート「ライヒェン通り」

ライヒェン通りで見かけた洋服店のショーウィンドウ

写真屋の絵看板

食事をしたホテルアルペンブリック

10)ホテル「ルートポルトパーク」

宿泊したホテルは，客室が 131 室あるフュッセンで一番大きな４つ星の高級ホテル。建物の中にカフェ，レストラン，スーパーマーケットもある。

洗面台，便器，バスタブ，バスタオルのサイズが日本と違い過ぎる。洗面台は高すぎて，顔を洗うと衣服の袖がビショビショに濡れてしまう。便器に腰を掛けると足が宙に浮くので，力むことができない。ブダペストのレストランの便所では，便器の位置が高く，つま先立ちしないと小便をすることができなかった。バスタブは長すぎて足が浴槽の縁に当たらず，手摺りを掴んでいないと滑って顔も湯の中に沈んでしまう。

タオルは日本のバスタオル，バスタオルはシーツのサイズくらいある。タオルを濡らすと重すぎて，身体の垢を擦るのには適さない。

ルートポルトパークの寝室

ルートポルトパークの洗面所

８. 第５日目［１０月１２日(木)］

１)ノイシュヴァンシュタイン城

８時 20 分にホテルを出発。約１５分でシュヴァンガウのアルプ湖畔に着く。土産物店やホテルが並んでいる。アルプ湖の彼方には，万年雪に覆われたアルプスの山々が，日の出を受けて輝いていた。

西側の丘の上には，ネオゴシック様式の「ホーエンシュヴァンガウ城」が見える。バイエルン国王ルートブィッヒ２世が幼少の頃に過ごしたと言われている城である。

アルプ湖とは反対，北側の山の中腹部に見える白亜の城が「ノイシュヴァンシュタイン城」。別名「白鳥城」。ルートヴィヒ２世が１７年間の歳月と莫大な費用をかけて完成させたもの。モチーフとなったのはワーグナーのオペラ「ローエングリン」。

ディズニーがシンデレラ城のモチーフにしたと言われる。その美しさは，ロマンチック街道のフィナーレを飾るにふさわしい。

ノイシュヴァンシュタイン城を撮影するビューポイントになっているのが，マリエン渓谷に架けられた逆ランガー形式のマリエン橋。

アルプ湖

アルプ湖畔の土産店

ホーエンシュヴァンガウ城

ノイシュヴァンシュタイン城

マリエン橋から撮影する観光客

ノイシュヴァンシュタイン城から眺めたアルプ湖

マリエン橋の上で記念撮影

ノイシュヴァンシュタイン城から眺めたシュヴァンガウの町とフォルッゲン湖

ノイシュヴァンシュタイン城入り口

逆ランガーのマリエン橋

２)ミュンヘン München

ミュンヘンは，ローテンブルクやハイデルベルクなどの伝統的建築物が残された街と全く趣が異なる。近代的な建物が建ち並んでいる。高層ビルはない。ビルは６階建てで揃っていた。建築規制によるのだろう。郊外には高い建物もあるが，市の条例で教会の塔よりも高くならないように，１００ｍ で制限されているそうだ。

ポプラ並木の通りは美しい。自転車の利用者が多く，車道と歩道との間に自転車専用道が設けられている。自転車はスピードを出して走っているので，歩行者にとっては自動車よりも危ないとのこと。

◆　マリエン広場 Marien platz

広場の中央には金色に輝くマリア柱像がある。ドイツ中が戦場となった３０年戦争でミュンヘンが戦禍から免れたことを記念して建てられたものである。

広場の北側には１８６７から１９０９年に建てられたゴシック様式の新市庁舎がある。仕掛け時計グロッケンシュビールがあり，1568 年のヴィルヘルム

５世とレナーテの結婚式を再現したダンスや演奏を見せてくれるようであるが，時間の都合でそれを見ることはできなかった。ダンスが見られるのは，聖金曜日と諸聖人の日を除く毎日，１１時と 12 時にそれぞれ１０分間だけのようである。

マリエン広場のマリア柱像

マリエン広場に面した新市庁舎

新市庁舎の仕掛け時計

◆　ヴィクトアーリエンマーケット

マリエン広場から南に少し行った所に，野菜や果物，花，チーズ，ワイン，鮮魚などの店がたくさん並んだ市場，ヴィクトアーリエンマーケットがある。

マーケットの中には，ビアガーデンもあり，多くの市民がジョッキでビールを飲んでいた。さすがは世界一のビールの街ミュンヘン。我々が訪れたのは午後 4 時。平日のこの時間帯にビールを飲んでいるのは，年金受給者の老人や早出のため仕事を終えたサラリーマンのようである。日曜日や平日の夜 6 時以降は店が閉まるのでビアガーデンはやっていないとのことであった。

市場の中央には，マイバウムが立てられている。自由時間の後の集合場所は，マイバウムの下であった。どこからでも見えるので迷うことがない。

マイバウムとは「五月の樹」の意味。ドイツでは春の訪れを祝い，５月になると町や村の広場に一本の高い柱を立てる。昔は真っ直ぐで高い松の木を森から切り出して立てていた。冬でも枯れない常緑樹には強い聖霊が宿っていると考えられていたからである。柱のてっぺんには新緑の枝を輪にしたものを飾り、そこから沢山のリボンをたらして、手に手に

リボンの端を持ちながら、木の回りで踊ったり、歌ったりして春の到来を祝っていた。

バイエルン地方では旗の色と同じ，青と白で交互に塗らたポールが立てられている。青は空の色，白はアルプスの雪の色を表している。マリエン広場やノイシュヴァンシュタイン城のあるシュヴァンガウでは，飾り付けされたマイバウムが一年中立ててある。

マイバウム

市場で果物を売る店

市場でソーセージを売る店

魚屋

ヴィクトアーリエンマーケットのビアガーデン

ビールの販売所

ジョッキでビールを飲むアベック

ヴァイツェン（白ビール）で乾杯

３)ミュンヘンの食事

飛行機に乗る前にミュンヘン市街のレストランで夕食。料理は，スープとヴィナーシュニッツエルとデザート。ウィナーシュニッツエルとは，薄い豚肉に小麦粉でまぶして油で揚げたもの。付け合わせは，蒸したジャガイモにバター味を付けたもの。肉は軟らかくとてもおいしかったが，ボリュームが多かったので半分残した。

ミュンヘンでは，何はともあれヴァイツェン（白ビール）ということで，同じテーブルに座った全員が，ヴァイツェン専用の細長いグラスで乾杯した。

ドイツビールには，ヘレス Helles，ドゥンケルス Dunkels，ヴァイツェンビア Weizenbier がある。ヘレスは日本でも飲んでいる一般的なビール。ドゥンケルスは黒ビール。ヴァイツェンビアは小麦を原料としたビール。こくがある。酵母が入っているため，少し白く濁った色をしていることから，白ビールとも呼んでいる。ガイドブックには，酵母が入って白濁したビールをヘーフェヴァイツェン，酵母を濾過したものをクリスタルヴァイツェンと呼ぶと書かれていた。

トイレをするためにレストランの地下に降りると，入り口が鉄格子になった部屋があった。中を覗くとワインの貯蔵庫であった。

レストランの地下のワイン貯蔵庫

４)ドイツからの出国

バスでミュンヘン国際空港に向かう。空港の正式名称は，ミュンヘン・フランツ・ヨーゼフ・シュトラフス空港。元バイエル州首相の名前を付けている。空港はミュンヘン中心から北東 28.5km のところにある。途中，高速道路の脇に白い大きドームが現れた。ミュンヘン・サッカースタジアムである。

ミュンヘン国際空港でも出国審査があったが，なぜか私だけに「皆さんはグループか」，「ミュンヘンには何日滞在したか」，「お金はいくら持っているか」など英語でいろいろと質問された。グループで私が最初に出国審査を受けたためかも知れない。英

語を聞き取ることは何とかできたものの，即座に英語で応答できずに困った。

ミュンヘン国際空港 20:05 分発の飛行機でブダペストへ。ブダペストまでの飛行時間は１時間２０分。ブダペストのヒルトンホテルに到着したのは，２２時半頃であった。

ミュンヘンのサッカースタジアム「WM シュタディオン・ミュンヘン」

９. 第６日目［１０月１３日(金)］

7 時に朝食。ここもバイキング方式であるが，さすが五つ星のホテルだけあって，これまでのホテルとは品揃えが全く違う。

朝食の後は池田夫妻と一緒にホテルの近くを散策する。ハンガリーやドイツでは，何度か犬を連れて散歩している人を見かけたが，昨夜，ホテルの部屋の前の廊下で，大きな犬を連れた宿泊客とすれ違ったときは本当に驚いた。五つ星ホテルの廊下を犬が歩いているのである。ハンガリーやドイツでは，犬や猫などペットの位置づけは，子供より上で，飼い主と同格ということを外山添乗員から聞いて納得した。

ヒルトンホテルでの朝食

ホテルの入り口でドアマンと記念撮影

犬を連れて散歩する現地人？(宿泊客かも)

１)ブダペスト Budapest

我々が泊まったヒルトンホテルは，王宮の丘にあった。ホテルの前には「漁夫の砦」，すぐ横に「マチャーシュ教会」があった。朝 9 時にホテルを徒歩で出て，現地のガイド・アニコさんの案内で「漁夫の砦」と「マチャーシュ教会」を見物した。

アニコさんは，小柄なハンガリー人。年齢は４０歳くらいだろうか。ユーモアに溢れた悠長な日本語に，彼女の頭の良さを感じさせられる。旦那さんは，愛知県出身の日本人で，現在はハンガーの大学で言語学を研究しているとのこと。日本から留学で来ていた彼からアニコさんが日本語を習い，アニコさんは彼にハンガリー語を教えていたのが縁で結ばれたようである。

２)漁夫の砦

ネオ・ロマネスク様式の回廊からなるこの砦は，展望台と町に美観を添えるための施設として，1905 年に建造されたもの。設計は，建築家フリジェシュ・シュレックによる。王宮の丘を取り囲む旧城壁に沿

って，中世に魚市がたった広場のそばに建設されている。昔，漁師のギルド(漁業組合)には，城のこの部分を守る義務が課せられていたことから「漁夫の砦」と呼ばれている。

漁夫の砦からのパノラマは素晴らしい。ライトアップされた夜景を撮影するポイントとしても最高である。王宮の丘から眺めるブダペストのパノラマが，ハンガリーでは最初の世界遺産に指定されている。我々が見学した午前中は，ドナウ河に靄がかかってかすんでおり，鮮明な写真が撮ることができなかった。残念である。

漁夫の砦の前には，ハンガリー人をキリスト教に改宗し，ローマ教皇から冠をもらった，ハンガリー初代王イシュトヴァーン１世の騎馬像がある。

漁夫の砦とマチャーシュ王の像

漁夫の砦

漁夫の砦から眺めたブダペスト

３)マチャーシュ教会

正式名称は「聖処女マリア教会」，別名は「戴冠教会」。

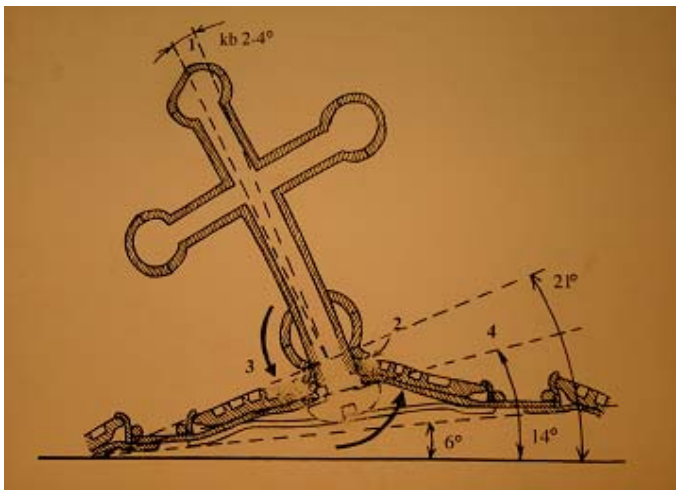
1867 年オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ１世がこの教会でハンガリー王として戴冠。オーストリア＝ハンガリー二重帝国時代が始まった。1255～69 年にかけてベーラ４世の命で，ゴシック様式で建立。80mの尖塔は 1470 年にマーチャーシュ王によって増築された。聖堂はゴシック様式の３廊式で，トルコから奪回した後バロック様式で再建され，19 世紀には本来のゴシック様式を基礎に改修された。再建を指揮したフリジェシュ・シュレックは，光沢のあるカラフルなモザイクを屋根に載せた。

モザイク模様の屋根のマチャーシュ教会

この像は一体誰だろうか

金山・高橋親子と

てっぺんの十字架が傾いた王冠

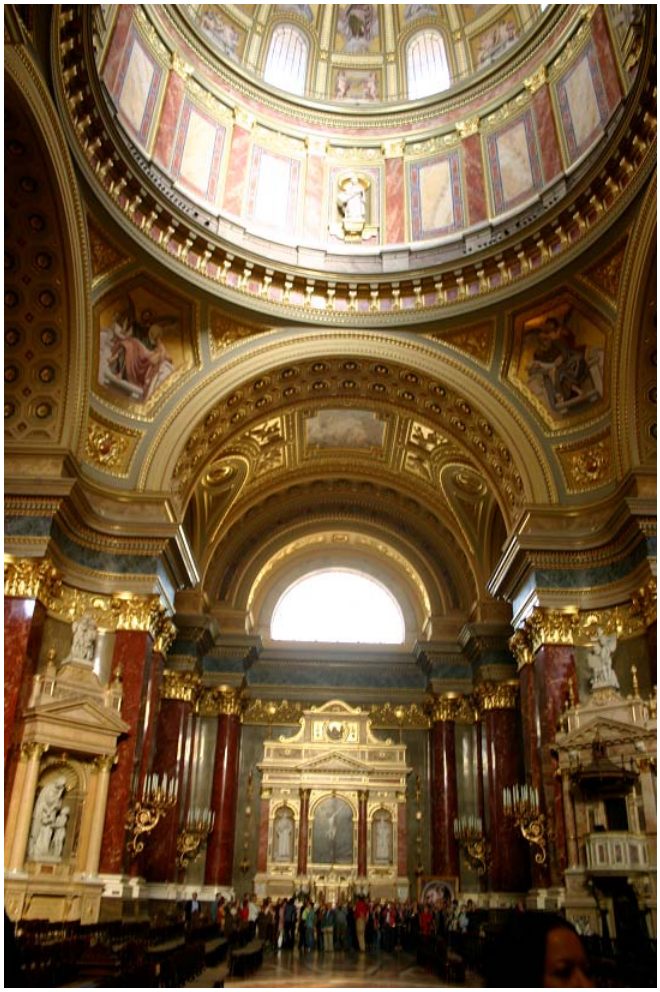


十字架の傾きは 21 度

4)セント・イシュトヴァーン教会

ブダペストで１番，国内では２番目に大きな教会。1851 年に着工し 1905 年完成。建国者，聖イシュトバーン王の名が奉ぜられる。教会には聖イシュトバーン王のミイラ化した右手が聖宝として保存されている。ドームの高さは国会議事堂の高さと同じで 96m。塔の高さを 96m にしているのは，896 年に建設されたためと言われている。

セント・イシュトヴァーン教会



壁面や天井に描かれたフレスコ画

ステンドグラス

５)英雄広場

英雄広場は，1986 年，建国 1000 年を記念して造られた広場。1929 年に完成したモニュメントの中央にそびえる高さ 36m の円柱の上には天使ガブリエルの像がおかれ，その下には建国の英雄アルパード王と 6 人の有力部族の王達，左右に広がる列柱には彼等に従った王達の像が配されている。

英雄広場

６)ドナウベント Donaubent

13 日の午後は「世界遺産ドナウベント半日観光」と名付けたオプショナルツアーに参加して，古都エステルゴム，ビシュグラード要塞，センテンドレの街を観光する。

ドナウベントとは，ブダペストの北 25km，ドナウ川がほぼ 90 度で曲がる一帯の総称。ベントとは曲がった所という意味。それまでスロヴァキアとの国境を西から東に流れてきた川が直角に曲がって南下する。

◆　古都エステルゴム Esztergom

エステルゴムは，ブダペストの北西６０km ほどに位置するドナウ川沿いの町。ドナウ川がほぼ 90 度曲がっていることから，ドナウベント地方と言われている。ここには，スズキ自動車の工場もある。

エステルゴムは，ハンガリー初代国王イシュトヴァーンの生誕の地であり，ハンガリー・カトリックの総本山であるドーム型の大聖堂がある。

大聖堂の西側をドナウ河が流れている。ドナウ川の対岸はスロバキア。スロバキアを間近に見ることができる。ドナウ河にはマーリア・ヴァレーリア橋（Maria Valeria Hid)と呼ばれるアーチ橋が架かっている。世界第二次大戦にドイツ軍によって破壊されていたが，2001 年再建された。これにより隣国スロバキアへ歩いて渡ることも可能になった。

エステルゴムの大聖堂

大聖堂の天井のフレスコ画

教会の内部

パイプオルガン

受胎告知の絵画がある祭壇

ドナウ河を挟んだ対岸がスロバキア

7)ビシュグラード Visegrad

ヴィシェグラードはドナウの景勝地。ドナウがほぼ直角に曲がり，南下する手前にある。ヴィシェグラードはスラブ語で高い城の意味。ハンガリー征服直後の 11 世紀には僧院が，13 世紀中頃から王宮が築かれ，マーチャーシュ王の 15 世紀には「地上の楽園」と呼ばれた。16 世紀からのオスマン・トルコの支配によって破壊され，1934 年の発掘調査開始まで王宮跡は伝説だった。

エステルゴムからブダペストの帰り道，ビシュグラード要塞を観光する。観光したといっても，道路脇にバスを駐め，山の上に見える要塞を眺めただけ。

山の上に見えるのがビシュグラード要塞

8)センテンドレ Szentendre

センテンドレは，ブダペストから北に約 20km，ドナウベントの南の入り口。14 世紀にバルカン半島からトルコの侵略を逃れてやってきたセルビア商人が築いた町。17 世紀になってオスマン・トルコから逃れてきたセルビア人と，ダルマチア人，ギリシア人も大挙して移民してきた。これらの人々が信仰する東方正教会がこの町に独特の雰囲気を作った。中世の雰囲気を残すリゾートタウンとして芸術家に親しまれたため，小さな博物館や美術館がある。

中央広場の周辺には絵画的な綺麗な家々が建ち並び，アートギャラリーや小奇麗なレストラン・カフェ，小さな博物館などが軒を並べている。広場の中央には，ペストから町が守られた記念に，セルビア商人が 1763 年に寄贈したセルビア教会の十字架が立っている。

ヨーロッパでは，田舎でも電線が地中化されていることが多いが，センテンドレでは電柱を見かけた。日本の電柱は円環断面をしたコンクリート製であるが，こちらの電柱もコンクリート製であるが，断面

はＨ形。軽量化を図るため，ウエブには穴が開けられている。ヨーロッパで電柱と言えば，これと同じような電柱である。

電柱

センテンドレの広場

９)最後の晩餐

ツアーの最後の晩餐は，「ゲッレールトの丘」にあるレストランでハンガリーの民族舞踏を見て，バイオリンなどの演奏を聴きながらの食事。

「ゲッレールトの丘」は，ブダ側のドナウ河畔にある高い丘。ゲッレールト司教が投げ込まれた悲劇の丘だが，ここからの眺めはブダペストでも最高といわれている。７時３０分にヒルトンホテルをバスで出発。１５分程度で到着。道の脇には土産物を売る屋台が沢山並んでいるが，２０時近い時間帯であったので，屋台は閉まっていた。

食事の内容は今回のツァーで最も豪華。前菜はチーズ。この旅行の夕食で，前菜がでたのは初めて。スープは，素麺が入ったコンソメ風スープ。メインディッシュはターキー(七面鳥の肉)。付け合わせはフライドポテト。デザートはアイスクリーム。

食事の後，突然，ハッピーバースディーの曲が演奏され，ローソクが立てられたケーキが運ばれてきた。絹枝の誕生日を祝うためである。添乗員の外山さんの粋な計らいにビックリさせられた。本当は昨日が絹枝の誕生日であったが，昨日のミュンヘンの夕食では，時間的に余裕もなかったし，このようなムードにもならないので，一日ずらしたのだ。最後の晩餐にふさわしい楽しい食事となった。

ホテルに帰ってきたのは１０時。漁夫の砦の上で，夜景を撮影。

ハンガリーの民族舞踊

各テーブルを回り，リクエストした曲を演奏してくれた。チップ 10 ユーロを渡す。

バイオリン奏者と外山添乗員

５５歳の誕生ケーキ(店からのサービス)

結婚２５周年記念のツーショット

ブダペストの夜景を背景に記念撮影

漁夫の砦から撮影した鎖橋の夜景

漁夫の砦から撮影した国会議事堂の夜景

漁夫の砦から撮影したマチャーシュ教会

10. 第７日目［１０月１４日(土)］

１)鎖橋とその周辺

朝食後，丘の下のドナウ河に架かっている鎖橋を見物。鎖橋は鎖を用いた吊橋。鎖と言っても通常の鎖とは異なり，アイバーと呼ばれるプレート 12 枚を重ねたものを連結して鎖を形成している。

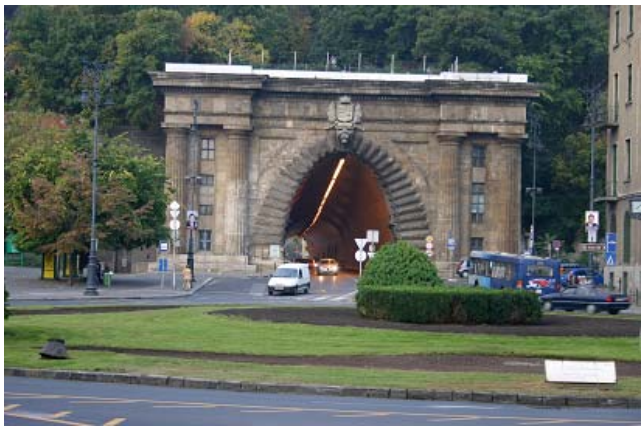
鎖橋は 1849 年，セーチェーニ・イシュトヴァーン

公爵の努力と熱意により完成した。設計は，イギリス人クラーク・アダム。ブダとペストを結ぶ８本の橋の中で１番古くて美しいとされている。

国道の起点 0km の標識だろうか

ブダの王宮への登り口

ブダの王宮



鎖橋の正面のトンネル

鎖橋の主塔

鎖として利用されているアイバー

アイバーを１２枚重ね合わせている

２)ドナウ河クルーズ

９時３０分に専用バスでホテルを出発。１０時より２時間のドナウ河クルーズを体験する。鎖橋の左岸(ペスト側)橋台の少し上流にある浮き桟橋からスタート。左岸よりを上流に向けて進み，マルギット橋の手前でＵターンし，右岸よりを下って自由橋を過ぎた地点で再びＵターンして元の桟橋に戻るコースである。

出発してすぐ，左岸側の護岸の上に銅で作られた靴がたくさん並べられているのが見える。第二次世界大戦の時，ドイツ軍がユダヤ人をドナウ河の川辺で殺害し，死体をドナウ河に流した。そのとき，多数の靴が残されていた。それを忘れることがないように作られたモニュメントのようである。

左岸側の川辺には国会議事堂が見える。シュタインドル・イムレの設計により，1885 年から 1902 年にかけて建てられたもので，ブダペストのシンボルになっている。国会議事堂の長さは 268m，最大幅は 118m, 高さ 96m である。ハンガリーの建国が 896 年であることから，建物の高さは 96m に決めたとのことである。修復中で足場が架けられていたのは残念であった。

上流のマルギット橋は，右岸のブダ地区と左岸のペスト地区，そしてドナウ河の中州であるマルギット島を連絡している。橋の中央の橋脚位置で三叉路になった珍しい構造となっている。

右岸側の王宮の丘には，マーチャーシュ教会，漁夫の砦，ブダの王宮，ゲレールト司教像，自由の像が見える。

ゲレールトの丘の中腹に十字架を掲げて立つブロンズ像セント・ゲレールトは，1046 年イシュトバーン１世によって招かれたイタリア人伝道師。異教徒によってこの丘の頂上からドナウに突き落とされ殉教した。

ゲレルトの丘で月桂樹(ガイドはオリーブと説明)を両手に持った像は，自由の女神像。ナチスからのハンガリー解放のために戦ったロシア兵士を記念して造られた解放者記念像。

鎖橋をバックにツーショット

国会議事堂

銅の靴

鎖橋

マルギット橋

自由橋

自由の女神像

ゲレールトの丘に立つセント・ゲレールト像

観光船の中

最後の食事をした自由橋の近くのレストラン

レストランの前の山下夫妻

自由橋と路面電車

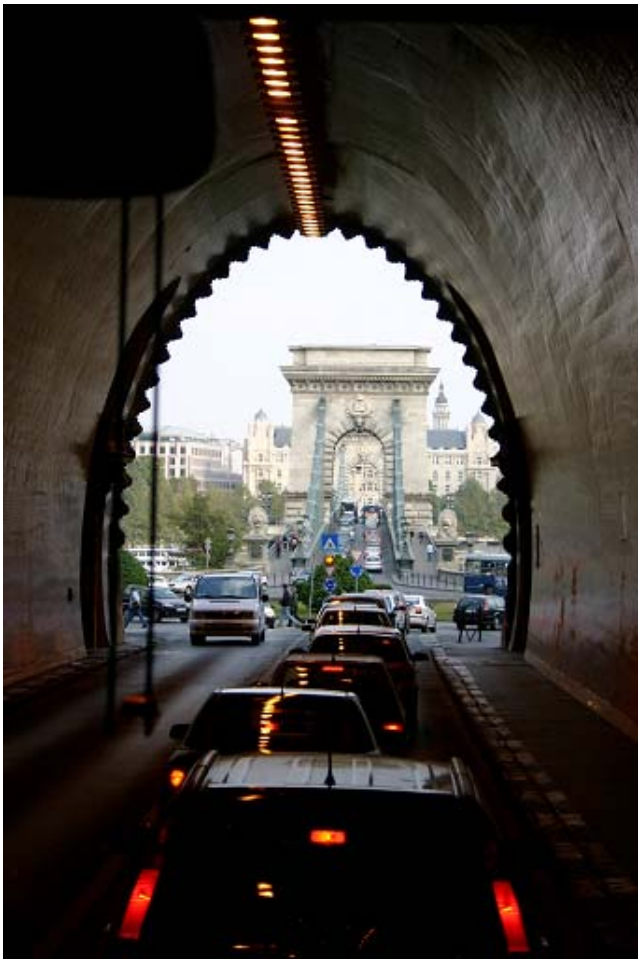
11. 車中から眺めたブダペスト

地下鉄の入り口。ブダペストの地下鉄はロンドン，ニューヨークに次いで世界で３番目に開業した。

街の様子

ブダの王宮

ドナウ河と国会議事堂



トンネルの中から見た鎖橋

マルギット橋

12. 蛇足

1)電波時計

私の時計は電波時計である。電波を受信して極めて正確に時を刻んでいる。日本とハンガリーやドイツとでは7時間の時差がある。一体，海外ではどのようになるのか興味があった。

ハンガリーやドイツに行っても，私の電波時計は，ずっと日本の時間を刻み続けた。現地の電波を受信して，現地時間に一致することはなかった。

電波は国ごとに周波数が違うので，日本で買った電波時計では外国の電波を受信しないようである。海外では，通常のクォーツ時計として機能するようである。

2)カメラ

２年前に一眼レフのデジタルカメラ EOS－kiss を買った。望遠と広角レンズも一緒だと少し重たくて嵩張るが，海外旅行にはこれを持って行くことにしている。

今回もこのカメラを持参した。大抵は落下防止にストラックを首に掛けている。ところが，ハンガリーからドイツに出国するとき，ブダペスト国際空港で X 線検査を受ける際に首からはずした。X 線検査が終わって荷物を受け取るときにカメラを床に落としてしまった。

落下の衝撃で，バッテリーを格納しているところのふたのレバーが壊れた。ふたがキチッと閉まらないと，電源が入らない仕組みらしく，ふたを指で押さえていないと撮影できない状態になった。

外山添乗員が，輪ゴムをたくさん持っていたので，それをもらって，カメラ本体とふたを輪ゴムで縛って応急処置をした。添乗員の必需品に輪ゴムがあることを初めて知った。幸いにも，以後の撮影に支障をきたすことはなかった。

カメラの修理に海外旅行保険が適用できるこを添乗員が教えてくれた。保険の契約書を見ると，携帯品特約として補償金 50 万円が付いていたので，添乗員に保険金請求書の証人欄に署名捺印をしてもらった。

海外旅行の際にはいつも旅行保険をかけている。

しかし，特約の種類や補償金額を確認したことはなかった。高価な携帯品を持参する場合には，確認しいおく必要があることを知った。

私の観光スタイル。ウエストポーチに望遠レンズ，広角レンズ，筆記用具をいれている。

３)ホテル

海外の高級ホテルは，日本のホテルに比べて部屋が広くてゆったりしている。調度品にも伝統的な立派なものが置かれている。しかし，部屋の使い勝手はあまり良くない。

前述したように大体が日本人のサイズに合っていない。大きすぎる。(私が小さいこともある)

どこのホテルにも，なぜかウォッシュレットのトイレがない。水質が悪いので管が詰まるのだろうと推測していたが，そうでもないらしい。愛知県出身の大学教授の妻というハンガリー人のガイドに質問すると，「日本との文化の違い。水で洗浄するのはかえって不潔」という答えが返ってきた。「痔の人はいないか」という質問には「たくさんいる」という回答であった。どうも納得できない。

海外のホテルは水回りがよくない。蛇口の弁がキチッと閉まらない。お湯の温度調節がきかないということは度々経験する。今回の旅行でも，ローテンブルクに泊まったとき，蛇口から出るのは，いつまで待ってぬるま湯のままであった。

最近，日本では客室でインターネット接続ができるホテルが増えている。ハンガリーやドイツは日本との時差が７時間あったので，日本との連絡は電子メールでしようと考えていた。ところが宿泊したどのホテルにもインターネット接続のサービスはされていなかった。

13. あとがき

今回は，秋のドイツを妻とゆっくり楽しむつもりであった。しかし，目にする風景がどれも美しく，この感動を永遠に記憶にとどめておきたい，この街並みを家族や知人に見せてやりたいという思いで，カメラのシャッターを切り続けた。結局，撮影した写真は 2,500 枚にもなっていた。

時差ボケの関係で毎朝 3～4 時頃に目が覚めた。朝食までの時間を利用し，前日に写した写真をパソコンに取り込んで整理した。また，添乗員やガイドから聞いた説明，現地で買った日本語版のガイドブックの解説などをワープロで書き留めた。日本に帰ると仕事が山のようにたまっている。旅行中にできるだけまとめておきたかった。帰ってすぐに旅行記として執筆するために。

遊びに来たのか，調査の仕事で来ているのかわからないような状態になってしまったが，「海外旅行は本当に楽しい」，「ヨーロッパの街並みは，格調高く，統一がとれていて美しい」ということを改めて実感させられる旅であった。

８日間とも天候に恵まれた。添乗員，ガイド，同行したツァーのメンバーにも恵まれた。添乗員の外山さんは底抜けに明るく，細部まで気配りをしてくれた。現地のガイドは知識が豊富で，説明はユーモアたっぷりであった。ツァーのメンバーは，旅慣れた方ばかりで，誰もが時間を厳守した。食事の時の会話も楽しむことができた。皆様のお陰で，結婚二十五周年の記念旅行にふさわしい，想い出に残る楽しい旅行となった。

土産に買ったワインコルク